

「1・2・おばけ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

残雪期の山は、麓から見ると、さまざまな模様が見られる。残雪そのものが模様をつくる場合と、雪がとけた部分(山肌)が模様をつくる場合がある。こうした模様は、地形に変化がない限り、毎年同じ時期に同じような形で見られることが多い。山によっては、この模様の形状が名称になっているものもある。北アルプスの「白馬岳」「爺が岳」などがその例だ。山麓の人々は、そのような山肌の模様を季節を感じ、田植えなどの農作業開始の目安にしていたこともあった。浅間山にも毎年残雪の時期に、特異な模様が出現する。北軽井沢からは角度が悪くてよく見えないのだが、嬬恋村からはよく確認できる。



特徴的なのは、山頂直下の長細い残雪と、その右下の谷筋に残った人型の残雪だ。人型の残雪のほうは、地元では「逆さ馬」と呼ばれているが、私にはどうひっくり返しても「馬」には見えない。「白いおばけ」に見える。友人は「スノーボーダー」に見えるという。山頂直下の長細い残雪のほうは、数字の「1」と「2」に見える。私はそれらを合わせて「1・2・おばけ」と呼んでいる。これが現れると、山麓にはヤマザクラが咲き、本格的な春が到来する。今年も「1・2・おばけ」が見ごろになった。